

令和6年度重点的に取り組む事業について

資料 2

センター名	中津川市地域包括支援センター			
担当地域	中津川市			
人口	74,081人			
高齢者数	65歳以上	25,006人	(内75歳以上)	14,427人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	33.8%	75歳以上高齢者割合	19.5%
介護認定率	12.9%			
担当地域	中津西 中津南 中津東			
人口	25,908人			
高齢者数	65歳以上	7,882人	(内75歳以上)	4,664人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	30.4%	75歳以上高齢者割合	18.0%
介護認定者数	要介護1～要介護5	792人	要支援1、要支援2	301人
	事業対象者数	4人		
介護認定率	13.9%			
現状	第三次中津川市地域保健医療計画策定時の市民アンケートにおいて「人生会議(ACP)」について8割の市民が知らないと回答している。			
課題	令和5年度に地域包括・在宅介護支援センターによる訪問等で厚生労働省の「人生会議」のチラシや既存の媒体を活用し普及啓発を図ったが、元気な高齢者に対し、普段感じていないことに対しアプローチすることの難しさがあった。また、普及するにあたりネーミングの分かりにくさがある。元気なうちから「人生会議」を行うためのきっかけづくりとなるよう中津川市版の普及チラシ、名称の検討が必要である。			
目標 (目指す姿)	元気なうちから「人生会議(ACP)」を行うことで、人生の最終段階においても自分の意思が尊重される			
事業名	「人生会議(ACP)」の普及			
取り組み内容	地域包括支援センター、在宅介護支援センターで「人生会議(ACP)」普及方法について検討会を実施。「人生会議」のきっかけづくりとなるよう中津川市版の普及チラシを作成し、各地域包括・在宅介護支援センターの事業で活用し普及啓発を図る。また、10月19日に実施する高齢・福祉フェアにおいても配布予定。			
成果など	○中津川市版のACP普及チラシを作成し、啓発活動を行った。 ・10月19日高齢・障がい 福祉フェア:ポスター掲示、チラシ配布 ・各支援センターの活動で使用(個別訪問時、介護予防教室、民児協等) ・広報なかつがわ1月号・ホームページへの掲載 ・ケアマネ部会で紹介 ○住民の反応は「延命をどうするかという話だと思っていたが大事な事だった」、「エンディングノートは書いたが家族と共有していなかった」「自分にはまだ関係ない。もっと年をとって人の世話を受けるようになったら考える」等色々な反応があることが分かった。ケアマネジャーからは、本人の思いを聞くツールとして活用できたという声もあった。各センターで活用状況を共有し、住民の反応等を踏まえ再度啓発チラシの内容の検討を行う予定。			
第三次中津川市地域保健医療計画策定時の市民アンケート:令和4年12月24日～令和5年1月6日に実施。市内在住の18歳以上の市民1,200件に調査票郵送配布。回収率38.3%。				
人生会議:将来の変化に備え、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のこと。				

センター名	中津川市地域包括支援センター
現状	認知症になっても安心して暮らせるまち中津川へ向けた取り組みとして、9月アルツハイマー月間に認知症の普及啓発活動行っている。
課題	認知症に対してネガティブなイメージが強く、認知症を持ちながら地域で生活していく事に不安を抱える人が多い。さらに認知症についての相談窓口を知らない方が多い。
目標 (目指す姿)	認知症になっても安心して地域で暮らし続けるために、正しい知識や支援を得る事ができるよう、相談窓口に早期につながる事ができる。
事業名	認知症みまもりのわ事業(普及啓発活動)
取り組み内容	<9月アルツハイマー月間の取り組み> ・認知症支援のテーマカラーのオレンジライトアップを9月中、にぎわいプラザにて実施。 ・オレンジ色のポロシャツの着用キャンペーンを実施。マイデザインけんぱちくん「認知症と共に歩む」のオレンジ色ポロシャツを職員、関係機関、市議会議員等に着用を協力依頼。皆で揃えて着用する日を設定。 ・図書館の一角に、認知症の書籍の紹介と共に、中津川市の認知症施策の取り組みや相談窓口について展示。 ・広報なかつがわ9月号、市ホームページにて認知症について掲載。 ・認知症や相談窓口の啓発チラシ・グッズの配布。 ・アルツハイマー月間イベントの実施(認知症の本人が集う会の実施)
成果など	9月のアルツハイマー月間に認知症の普及啓発活動を行った。 ・認知症への関心を高めるためにオレンジライトアップをにぎわいプラザにて9月中実施。また、オレンジ色けんぱちくんポロシャツ着用キャンペーンとして指定日を3日間設定し、職員、関係機関、市議会議員等で着用した。 ・中津川市の認知症施策の紹介として、図書館での認知症の書籍の紹介と共に、相談窓口や介護者家族の会、認知症みまもりのわSOSにネットワーク事業などについて展示を行った。さらに翌月の福祉フェアの開催に合わせて延長して展示を行った。また、広報なかつがわ9月号、市ホームページにて認知症施策や相談窓口等について掲載した。 ・相談窓口等の啓発チラシと共にオレンジ色の花の種を入れた啓発グッズを1,000個配布した。 ・アルツハイマー月間のイベントとして認知症の本人が集う会を実施し、参加者は5名であった。 ○次年度は恵那医師会の認知症サポート医にもアドバイスを頂きながら事業を進めていきたい。
その他の活動	「地域包括支援センター」の名称では、業務内容が分かりにくく高齢者の相談窓口として認識されにくいという課題があったため、機関紙やチラシで「地域包括支援センター」の名称を記載するときには ～高齢者の身近な相談窓口～ を併記するようにした。 記載例 高齢者の身近な相談窓口 中津川市瀬戸の里地域包括支援センター 91号 支援センター便り 

センター名	中津川市瀬戸の里地域包括支援センター																			
担当地域	苗木地区																			
人口	5,929人																			
高齢者数	65歳以上	1,872人	(内75歳以上)	1,078人																
高齢化率	65歳以上高齢者割合	31.6%	75歳以上高齢者割合	18.2%																
介護認定者数	要介護1～要介護5	186人	要支援1、要支援2	56人																
	事業対象者数	8人																		
介護認定率	13.4%																			
現状	昨年度コロナが5類に移行された状況であるが、まだまだ地域の中での集いの場所が回復していない現状。また、実態把握や相談等行う中で、独居、高齢世帯だけでなく、同居世帯の中でも高齢者の孤立(孤食、他者との交流が無い等)が心配される。																			
課題	高齢者に関わるそれぞれの団体等の連携がうまく機能していなかった。介護予防事業が特定の声掛けをした方だけに偏ってしまっており、地域住民へのアプローチが足りなかった。																			
目標 (目指す姿)	地域内のネットワークを構築することで、交流できる場所作りを行い、孤立化防止を図ることで、フレイル予防に繋がっていき、生きがいある生活の支援を行う																			
事業名	地域のネットワーク作り・介護予防事業																			
取り組み内容	・地域の中での集いの場作りを更に進めるために、苗木地区生活支援コーディネーター、社会福祉協議会、まちづくり協議会、苗木公民館等と連携し、認知症カフェ、健康福祉のつどい、介護予防の事業「男の大学」を共催で実施し、居場所作りに努める。 ・支援センターだよりで、介護予防事業の一般募集をかけた。また、内容の検討を行い、フレイル予防につながる内容とした。 ・年齢層も60代からの介護予防への取組ができるよう、特に男性の参加率をあげるため、男性に特化した内容の「男の大学」の立ち上げを行う。																			
成果など	・今年度も苗木地域まちづくり推進協議会と苗木地区社会福祉推進協議会との共催で第3回苗木健康・福祉のつどいを企画開催。地域の集いの場づくり、健康・福祉の啓発ができ、特に今年度は赤座先生に講演をいただいたことで医療と福祉のネットワークづくりにつながった。 ・男性の居場所づくり、男性に特化した介護予防の取り組みを企画して一般募集。年間を通しての参加率は83.9%と高く、来年度も続けて欲しいとの声も上がっている。男性でも気軽に集える場がほしいという地域のニーズに応えることができた。 ・さくらカフェ(認知症カフェ)を社会福祉協議会と共催で実施。毎回地域のケアマネジャーさんに協力いただくことができ、専門職を交えた気軽に誰でも集える場を提供することができた。今年度開催回数は3回としたが、参加者数は平均29人と多数の参加があった。		★健康福祉のつどい 来場者数 <table><tr><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>128人</td><td>⇒ 190人</td></tr></table> ・赤座先生のお話から始まり健康体験ができたこと とても良かった。 ・各種測定をしたり講演会はこれからの健康維持に為になると思い、参加して良かった。 ※健康福祉のつどいアンケートより抜粋 ★男の大学 参加者内訳 <table><tr><td>年代</td><td>人数</td><td>平均年齢</td></tr><tr><td>60歳代</td><td>3人</td><td rowspan="4">76.3歳</td></tr><tr><td>70歳代</td><td>4人</td></tr><tr><td>80歳代</td><td>3人</td></tr><tr><td>90歳代</td><td>1人</td></tr></table> 令和5年度 8人 令和6年度 ⇒ 29人		令和5年度	令和6年度	128人	⇒ 190人	年代	人数	平均年齢	60歳代	3人	76.3歳	70歳代	4人	80歳代	3人	90歳代	1人
	令和5年度	令和6年度																		
128人	⇒ 190人																			
年代	人数	平均年齢																		
60歳代	3人	76.3歳																		
70歳代	4人																			
80歳代	3人																			
90歳代	1人																			

その他の活動	・昨年度に引き続き、ケアマネカフェを実施。研修や交流を通して顔の見える関係づくりができ、連携強化につながった。 ・男の大学では、参加者が自分たちの予防事業という枠を超えて苗木文化交流まつりに自主参加する計画を立てることもできた。
--------	---

センター名	中津川市ひだまり苑地域包括支援センター			
担当地域	坂本地域			
人口	13,185人			
高齢者数	65歳以上	3,643人	(内75歳以上)	2,116人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	27.6%	75歳以上高齢者割合	16.0%
介護認定者数	要介護1～要介護5	343人	要支援1、要支援2	115人
	事業対象者数	9人		
介護認定率	12.8%			
現状	地域包括ネットワーク会議において、認知症をテーマに昨年度は事務局の立ち上げができ、延べ3回の会議を行った。今年度、さらなる参加者を加え、本会議としての活動を始めている。各団体個々の活動状況の報告と意見交流を行っている段階である。			
課題	昨年度苦慮した、ネットワーク会議の意義についての理解は参加者に浸透してきている。今年度の課題としては、本会議において、意見交流の段階にとどまらず、参加者が共同して取り組み、そこで得られる成果と取り組みの中からネットワーク会議運営の問題を確認する必要があると考える。			
目標 (目指す姿)	坂本地区高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように継続的な支援体制を構築していく。			
事業名	坂本地区地域包括ケアネットワーク会議			
取り組み内容	各団体の個々の取り組みの情報共有、意見交換を通じて、会全体で取り組むことができるような取り組みを検討し、実施するところまでつなげる。 各団体、地域住民に向けて、認知症当事者、その家族の理解が深まるような、啓発活動(認知症サポーター講座、出前講座等)を行っていく。			
成果など	①ネットワーク会議に関する取り組みの成果 ・構成団体 9団体 開催回数 3回 ネットワーク会議にて認知症の取り組みのが各団体に浸透し 1) 民生・主任児童委員会の6名ほどの有志の方がその取り組みに賛同し、当包括支援センターも参加して検討を重ね認知症啓発のチラシを作成。街頭での配布を行うことができた。 2) 地区社協として、「高齢者見守り活動協力店」という、認知症の方の見守り活動に協力していただける店舗、企業の拡充をはかっている。当包括支援センターも問い合わせ・連絡先として参加しており、実際問い合わせもあった。 3) 民生・主任児童委員定例会への、当包括支援センターの参加(R6年8月～)を始める。相談援助のミニ講座や認知症介護者家族会、介護予防教室、ACP(人生会議)の紹介を行った。 ○評価 1) 各団体個別の活動がまだ中心ではあるが、当包括支援センターがそこに参加させていただくようになったことにより、地域包括センター事業の周知が進んだ。また、気軽に問い合わせいただくなど相談件数が増え連携が強まった。 2) ネットワーク会議全体としては、認知症の方を支援する取り組みをわかりやすく伝えられるようなチラシを作成すること決め、現在作成中である。			

②認知症の啓発活動について

1) 認知症サポーター講座 2回

地域福祉推進委員さん対象12名 一般からの開催希望者 3名

2) サロンへの出前講座 2回 21名 認知症の症状や予防、相談できるところの紹介等を行った。

○評価

1) 認知症サポーター講座としては、新しく地域福祉推進委員さんになられた方対象に開催することが定着してきている。個人の方の申し込みもあり、本年度初めてそういった方対象の認知症サポーター講座を行うことができた。認知症の方を支援する取り組みへの理解が地域にも浸透してきている。

2) 出前講座については、参加者の年齢層として認知症を自分ごととして考えてくださるような方が多く、生活習慣の改善や早期受診の重要性を伝える機会となっている。

センター名	中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター			
担当地域	落合地区・神坂地区・瀬戸区（板橋を除く）			
人口	4,947人			
高齢者数	65歳以上	1939人	（内75歳以上）	1100人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	39.2%	75歳以上高齢者割合	22.2%
介護認定者数	要介護1～要介護5	166人	要支援1、要支援2	62人
	事業対象者数	3人		
介護認定率	11.9%			
現状	フレイル予防教室の参加者は、年々参加者も増えてはいるが、会場に近く歩いてこれる人や車を運転してこれる人が中心となってしまう。参加をしたいが交通手段がなく躊躇してしまう人もいる。 ※フレイルとは、健康な状態と介護が必要な状態の間の「虚弱」な状態のこと。			
課題	フレイル予防教室の参加者は、歩いてこれる人や車を運転してこれる人が中心となってしまう。多くの方に参加していただけるような工夫をしていく必要がある。			
目標 （目指す姿）	地域の資源であるコミュニティバスを利用し、フレイル予防教室へ参加できる環境を作る。			
事業名	落合地区で地域の資源を活用したフレイル予防教室等の活動			
取り組み内容	・昨年度コミュニティバス検討委員会に参加し、地域の区長さんと路線の検討を行った。路線バスの乗り継ぎや買い物にも便利なコースを検討中。 ・フレイル予防教室や認知症カフェの開催時間を、コミュニティバスの到着・出発の時間に合わせて会場など工夫し開催する。 ・フレイル予防教室へ参加するためにコミュニティバスを利用していた方が、買い物や受診など幅広く交通手段として認知してもらえるきっかけ作りにもなるといい。			
成果など	・お試しで1回だけコミュニティバスを利用して参加された方が5名いた。利用した感想として、買い物等に利用ができるとの評価あり。フレイル予防教室を通じてコミュニティバスの啓発になった。 ・コミュニティバスの発着に合わせて、令和5年度と会場を変更して開催。コミュニティバスを利用して参加する方は少なかったが、令和5年度 実人員19名から令和6年度 実人員32名と参加登録者数が大幅に伸びた。理由としては、会場までのアクセスのし易さや案内チラシでの周知回数を増やしたり、内容の工夫を行ったことが考えられる。参加者からの口コミも大きい。また、教室が終わった後には参加者同士で誘い合い、すぐ近くの喫茶店へ行き2次会を行っている。 ・今後もコミュニティバスを活用して介護予防教室やその他の事業を計画することで、交通手段としての周知や、事業への参加をPRしていきたい。 ・もし車に乗れなくなった場合に、コミュニティバスで買い物など活用ができ、自立した生活が継続できることを参加者に周知することにも繋がった。			

センター名	中津川市シクラメン地域包括支援センター			
担当地域	阿木地区			
人口	1,974人			
高齢者数	65歳以上	873人	(内75歳以上)	503人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	44.2%	75歳以上高齢者割合	25.5%
介護認定者数	要介護1～要介護5	84人	要支援1、要支援2	13人
	事業対象者数	8人		
介護認定率	12.0%			
現状	阿木高齢者福祉アンケート調査(令和3年度)によると、認知症のある人にとって阿木地区は住みやすいかとの質問に対し、「はい」31.7%、「いいえ」7.4%、「わからない」56.1%であった。			
課題	認知症に関する活動を行っているが、理解、関心が進まない。			
目標 (目指す姿)	地域での活動を通し認知症のある人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活できる地域を目指す。			
事業名	あぎオレンジカフェの開催、介護者の集いの開催			
取り組み内容	(1)認知症のある人及びその家族、地域住民を対象にカフェやサロンなどを開催し、認知症のある人の得意分野や経験を活かす機会を設ける(料理、趣味、仕事など)。 (2)上記(1)の活動などの情報発信を、認知症に関する情報提供とともに各関係機関で行う。 (3)集まりや広報を通じ、認知症に関する相談窓口、機関の周知を行う。 (4)家族会を定期的に行い、参加者の相互作用を活かす機会や気分転換できる機会を作る。			
成果など	【機会の創出】(※1月末現在) ①カフェ2回(平均参加者数29人)開催、令和5年度比較:平均参加者数+7人、スタッフボランティア数+2人 ②介護者の集い3回(平均参加者数4人)開催、令和5年度比較:平均参加数+1人 【情報発信、周知】 ・包括機関紙、SNS等により情報発信を行った他、カフェにて認知症疾患医療センターの職員の方による周知などを行った。今後も必要な方へ必要な情報を届けることができるようにしていく。			

センター名	中津川市シクラメン地域包括支援センター
現状	阿木高齢者福祉アンケート調査(令和3年度)によると、健康に関するテレビ番組等に関心がある62.1%、健康や介護予防のために気を付けていることはバランスの良い食事31.3%、運動29.6%と回答され、健康に対する関心が高い。
課題	減塩活動や体操など健康のための啓発、実践を行う担い手が不足している。
目標 (目指す姿)	住民が主体となり、体操を通じお互いに健康づくりを行う様になる。
事業名	阿木いきいきリハビリ体操指導士会との連携、実践
取り組み内容	(1)定例会を開催し、健康のための協議、学習、実践の場を確保。 (2)介護予防教室の場で体操の実践。 (3)活動の報告、周知の為に広報。 (4)指導士養成研修の開催。
成果など	【指導士会定例会】 25名所属(男性5名、女性20名:50歳代～80歳代)(令和6年4月現在)、定例会2か月に1度開催。 【体操の実践】 定期で毎月2度の実践の場(介護予防教室)で活動の他、必要に応じ依頼し活動。 【活動報告、広報】 包括機関紙、SNS等により報告、広報 【研修開催】 平成30年度から本格的に研修を開始しこれまで5年間研修を開催。今年度は3月に研修開催予定。

センター名	中津川市北部地域包括支援センター			
担当地域	中津川市（加子母・付知・福岡・川上・坂下・山口・蛭川）			
人口	22,138人			
高齢者数	65歳以上	8,797人	（内75歳以上）	4,966人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	39.7%	75歳以上高齢者割合	22.4%
介護認定者数	要介護1～要介護5	839人	要支援1、要支援2	227人
	事業対象者数	14人		
介護認定率	12.3%			
現状	男性の介護者が増えているが介護の方法や相談先など分からない事も多い。			
課題	男性の介護者は増えているが悩みを共有する機会がなく孤立してしまったり、認知症の病識がなく症状を悪化させてしまい介護負担が増えてしまうケースがある。			
目標 （目指す姿）	男性介護者が介護の悩みを相談できる事で負担や不安を少なくし安心して介護ができる。			
事業名	男性介護者への支援の充実			
取り組み内容	・改めて関係機関に包括の周知を図る。 ・男性からの介護相談を受けた時は、繋がりを持ちなりに定期的に持ち気軽に相談できる関係をつくる。 ・以前介護していた方も含め、男性介護者に声をかけて地域の介護者へのつどいへ参加を促し、同じ悩みを共有し孤立を防ぐ。 ・男性介護者のつどいを企画			
成果など	・男性介護者からの相談を受けた時は包括内でも情報を共有し対応した。ケアマネさんと同行訪問させてもらい支援方法を一緒に考える事を行った。 ・各地域で行われている介護者のつどいへ男性の介護者の方にも積極的に声を掛けた。延べ人数はR5年度6人からR6年度15人に、実人数はR5年度2人からR6年度7人に増加。 ・男性の介護者のつどいは日程調整や内容など決めきれず実施できなかった。			
その他の活動	・坂下高校の協力を得て、坂下地区での介護者のつどいや介護予防教室に坂下高校生に参加してもらった。 ・今年度から坂下診療所の一角を借りて坂下・山口地区の方を対象に介護予防教室を開始。来年度は近隣の薬剤師さんや坂下診療所の医師の協力も得て地域の方の健康維持に繋がるような企画を計画している。			